

商学研究科 教員情報

＜経営系列＞

氏名	富野 貴弘（とみの たかひろ）	
担当専修科目	前期課程：「生産管理論特論」「生産管理論特論演習」 前期課程：「生産管理論特殊研究」「生産管理論特殊演習」	
研究テーマ	生産システムの市場適応力に関する研究, グローバル・サプライチェーンマネジメントに関する研究, 高付加価値型ものづくりに関する研究, ものづくりの競争力と時間サイクルに関する研究	
研究指導領域	ものづくり企業および産業の競争力について, 生産管理領域を中心にフィールドワークをベースにした研究指導を行っている。したがって, 定量的な統計分析を軸にした研究に関しては, 専門的な指導はできない。研究対象としている主な産業は, 自動車産業と電機産業である。今述べたように私の研究室では, 研究論文の作成において, 文献研究に加えて(英語と日本語の相当の量の文献を読む), 自らの足を使い, ものづくりの現場を回るフィールド調査を必須としている。何らかの理由でフィールド調査ができない場合, 本研究室への入室は控えてほしい。なお, 原則として調査先の企業の紹介はしない。調査先を自ら開拓するのも大事な研究能力だからである。	
キーワード (10個以内)	<ul style="list-style-type: none"> ・生産システム ・サプライヤーシステム ・サプライチェーンマネジメント ・ものづくり ・経営学 	<ul style="list-style-type: none"> ・製品アーキテクチャ ・産業と企業の競争力
志願者への メッセージなど	研究は, 「なぜ, そうなっているのだろうか?」「本当にそうなのだろうか?」と, 身の回りのあらゆる現象とその解釈に対して疑問を持つことから始まります。そこから自分なりの視点と新しい論理, 理論を作り出していくことが, 研究者の第一義的な仕事です。例えば近年では, 日本の大手家電メーカーの不振を受け, 「日本のものづくりは終わった」などという総悲観論的な意見を聞くこともありますが, 本当にそうなののでしょうか? いつの時代であっても, 元気な企業と, そうでない企業は存在します。かつてのバブル経済の時代であっても, 儲かっていた企業は存在したわけです。大切なのは, そのような表層的なフワフワした言説に惑わされることなく, 自分の目で事実を確かめ, 起きていることの本質を読み解くことです。	

商学研究科 教員情報

＜経営系列＞

氏名	出見世 信之（でみせ のぶゆき）	
担当専修科目	前期課程:「経営哲学特論」「経営哲学特論演習」 後期課程:「経営哲学特殊研究」「経営哲学特殊演習」	
研究テーマ	企業倫理・CSRおよび企業統治に関する国際比較研究	
研究指導領域	企業と利害関係者との関係から経営に関する領域について研究指導を行う。具体的には、CSR、企業倫理、企業統治の領域について、企業の利害関係者に対する責任、企業と利害関係者との間に存在する課題事項、企業の目的と利害関係者との関係などに関する研究の指導を行う。	
キーワード (10個以内)	<ul style="list-style-type: none"> ・企業倫理 ・企業の社会的責任 ・企業統治 ・企業倫理の制度化 ・課題事項管理 	<ul style="list-style-type: none"> ・利害関係者 ・利害関係者志向の経営 ・コンプライアンス ・経営哲学
志願者への メッセージなど	企業倫理・CSR・企業統治に関する研究は、「企業とは何か」という本質的な問題を改めて問いかけるものです。受講生の皆さんと一緒に考えを深めていきます。	

商学研究科 教員情報

＜会計系列＞

氏名	前田 陽（まえだ あきら）	
担当専修科目	前期課程：「意思決定会計論特論」「意思決定会計論特論演習」	
研究テーマ	資本予算及び中期経営計画の策定に係る研究／日本企業における原価管理の研究	
研究指導領域	<p>現代の企業人は常に合理的な判断が求められる。管理会計はどの案が合理的なものか、またそれをいかに実現していけば最善なのかを導く情報を提供する。そのほかにも、部下や組織の業績を評価する場面では、それに資する情報を提供したり、その後にかなる経営行動を採るべきかの指針も齎す。</p> <p>こうした管理会計の知識は程度の差こそあれ、経営者や経理／財務担当者、経営企画担当者のみならず、企業内のあらゆるマネジャーが必要とするものである。</p> <p>管理会計研究では経営改善を図るための会計手法や、財務業績を向上させるための経営システム等をも対象とし、その研究領域は極めて広い。意思決定会計論特論及び意思決定会計論特論演習では、管理会計に関係するもの全てを財務会計学や経営学等の隣接する学問領域の研究と関連付けつつ様々な視点から研究する。</p>	
キーワード (10個以内)	<ul style="list-style-type: none"> ・資本予算 ・原価管理(コストマネジメント) ・マネジメントコントロール ・利益管理(予算管理) ・中期経営計画 	<ul style="list-style-type: none"> ・管理会計 ・原価企画 ・設備投資管理 ・原価計算
志願者への メッセージなど	知的な好奇心が旺盛で、学問に対して真摯な態度で臨む者を望む。	

商学研究科 教員情報

＜会計系列＞

氏名	加藤 達彦（かとう たつひこ）	
担当専修科目	前期課程：「監査論特論」「監査論特論演習」 後期課程：「監査論特殊研究」「監査論特殊演習」	
研究テーマ	ゲーム理論・実験を用いた会計監査制度の設計に関する研究および公会計・公監査制度の国際比較による制度設計の研究	
研究指導領域	会計監査制度の修正や設計について、ゲーム理論による簡単なモデル化とそれに基づいた実験を主に実施しているが、国際制度比較による公会計・公監査制度の有効性の検証も行っている。研究者として幅広い領域に関心を持っているため、前期課程・後期課程の学生が研究領域を選択する際は、会計学の全ての分野から自分のもっとも関心のあるテーマを自主的に決めることを勧めている。	
キーワード (10個以内)	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲーム理論 ・実験会计学 ・比較制度論 ・会計監査 ・監査人の独立性 	<ul style="list-style-type: none"> ・公会計 ・会計検査院
志願者への メッセージなど	発想力と根気が研究のカギです。	

商学研究科 教員情報

＜会計系列＞

氏名	山本 昌弘（やまもと まさひろ）	
担当専修科目	前期課程：「国際会計論特論」「国際会計論特論演習」 後期課程：「国際会計論特殊研究」「国際会計論特殊演習」	
研究テーマ	財務データを活用した日本企業の会計政策に関する研究	
研究指導領域	利益管理の実証研究 実証会計学に基づく多国籍企業の会計政策の分析 非財務データを活用した多面的な企業評価	
キーワード (10個以内)	<ul style="list-style-type: none"> ・利益管理 ・企業評価 ・行動ファイナンス ・会計政策 ・実証会計学 	<ul style="list-style-type: none"> ・投資決定 ・多国籍企業
志願者への メッセージなど	実証会計学の研究にはファイナンスと多変量解析のスキルが不可欠です。 国際会計ですから、世界標準の会計学研究を推進したいと思います。	

商学研究科 教員情報

＜会計系列＞

氏名	名越 洋子（なこし ようこ）	
担当専修科目	前期課程：「会計情報論特論」「会計情報論特論演習」 後期課程：「会計情報論特殊研究」「会計情報論特殊演習」	
研究テーマ	ファイナンスにおける資本会計の問題（転換社債型の新株予約権付社債、ストックオプションなど）、排出枠と排出量取引に見る会計上の認識、M&A（企業結合）や連結の範囲をめぐる問題	
研究指導領域	<p>財務会計の分野のうち、ファイナンス、つまり資金調達やデリバティブ取引の会計を中心に扱います。特に、新株予約権を用いた転換社債型の発行やストックオプション、その他ヘッジ会計をとりあげます。その際、貸借対照表項目である資産・負債・純資産（資本）の認識や損益計算について、ディスクロージャー問題とは区別して考察していきます。そのような問題意識から、多様な取引の会計問題についてアプローチし、たとえば、CO2を排出する権利である排出枠や排出量を取引する問題を会計学的にアプローチすることもできます。加えて、昨今の会計が連結が基本であることから、議決権を考慮しない連結の考え方も出ています。議決権のない会社を連結できるかなど、不動産ファンドなど特別目的会社（SPE）をどう考えるかについてもつなげていきます。連結から発展して、持ち株会社方式の経営統合に関する会計にもアプローチします。</p>	
キーワード （10個以内）	<ul style="list-style-type: none"> ・転換社債型新株予約権付社債 ・企業結合とM&A ・持株会社方式の経営統合 ・ストックオプション ・株式関連報酬 	<ul style="list-style-type: none"> ・優先株式 ・新株予約権 ・特別目的会社（SPE）の連結 ・排出枠と排出量取引 ・ファイナンス
志願者への メッセージなど	<p>会計学のうち、ファイナンス（資金調達やデリバティブ）やM&A、連結、排出量取引などを会計学的に分析することに関心のある方を歓迎します。実例と会計基準を結び付けて議論してください。米国の会計基準（US GAAP）や国際財務報告基準（IFRS）、それらの説明を英文で読むことが求められます。もちろん日本語文献も扱いますが、資料の読みこなしが必要となります。</p>	

商学研究科 教員情報

＜会計系列＞

氏名	松原 有里（まつばら ゆり）	
担当専修科目	前期課程：「租税法特論」「租税法特論演習」	
研究テーマ	EU(ドイツ)租税法の研究を中心とした日本との比較法の見地から企業結合税制、租税訴訟制度の研究および租税判例研究	
研究指導領域	①所得税・法人税・相続税・消費税をはじめとする租税実体法の研究と②行政(民事)訴訟の一部である税務訴訟と刑事事件の一つである租税処罰法の関係を主に考えている。いずれも判例研究を中心に指導を行う予定である。	
キーワード (10個以内)	<ul style="list-style-type: none"> ・所得税法 ・EU租税法 ・租税争訟法 ・地方税口 	<ul style="list-style-type: none"> ・結合企業税制 ・ドイツ租税法 ・租税処罰法 ・消費税
志願者への メッセージなど	租税法は、伝統的に財政学・経済学・会計学等と関連して発達してきた法学です。大学院で専門的に研究する際には、①課税理論を理解するために必要な周辺科目への幅広い洞察力と②個々の条文解釈を行う際に必要なテクニカルな細かい視点ををあわせもつことを忘れないで下さい。また、近年は、国際的租税回避の事案が増えるにつれて、第一次文献を読むための外国語(＝特に英語)の知識も必須になってきています。	

商学研究科 教員情報

＜会計系列＞

氏名	奈良 沙織（なら さおり）	
担当専修科目	前期課程:「企業評価論特論」「企業評価論特論演習」	
研究テーマ	企業のディスクロージャーとアナリスト	
研究指導領域	<p>企業のディスクロージャーには、法律に基づいて開示される制度開示と企業が自主的に開示する情報である自主開示がありますが、当研究室では後者の自主開示を中心に研究を行っています。なかでも、企業が公表する業績予想（経営者予想）やアナリストが作成する業績予想（アナリスト予想）といった将来の見通しの情報が研究の中心です。さらに、企業のディスクロージャーは企業を調査するアナリストや投資家に影響を与え、企業と投資家を取り巻く情報環境や企業パフォーマンス、企業価値とも関連しています。研究論文指導においてはこうした分野を中心に、“まだ明らかになっていないこと”を明らかにしていきます。なお、分析手法は実証研究であり、定量的な分析により仮説の検証を行います。</p>	
キーワード (10個以内)	<ul style="list-style-type: none"> ・業績予想 ・経営者予想 ・アナリスト予想 ・アナリスト ・アナリスト・カバレッジ 	<ul style="list-style-type: none"> ・アナリスト予想の分散 ・ディスクロージャー ・IR ・企業価値評価 ・コーポレート・ガバナンス
志願者への メッセージなど	<p>実証分析が主となるので、基本的な統計の知識、統計ソフトの使い方に習熟していることが必須となります。加えて、先行研究は英文が中心なので、英語の能力も必要です。また、会計分野の研究ではあるものの、財務数値だけでなく企業パフォーマンスの成果として株価や株式時価総額を扱うことも多く、近年はコーポレート・ガバナンスに関連した研究が注目されており、ファイナンス領域とも密接な関連があります。こうした分野に強い関心を持つ意欲の高い学生の応募を望みます。</p>	